

## 教育学部から共同教育学部へ

— 共同授業の実際 —

令和2年4月、宇都宮大学は群馬大学と共同教育課程の構築を基に、シラバスを統一し、両学部スケールメリットとシナジー効果を活かし教員養成機能の強化と教育の質の向上を目的に新学部を設立しました。

両大学が連携することにより各教科のスタッフを充実させ、これまで以上に幅広く・深い教育内容の授業を実現いたします。

新たな学部では従来のカリキュラムを大幅に刷新し、卒業単位もこれまでの128単位から155単位に変更しました。両大学の専門分野の強み、特色を組み合わせ合わせた高い質と幅広い教育カリキュラムを基に、次代の義務教育課程を担う学部としました。

日本で初めての共同教育学部の特色として、最新鋭の双方向型遠隔システムを用いた授業ではライブ動画配信により両大学の授業をリアルタイムに学修し、院生や上級生がTAとして授業者や学生のサポートを行い、授業を円滑に実施できる様になっています。また、新たな時代のニーズに対応したForefront科目（ICT教育の授業設計、プログラミング教育法、環境教育、ESD教育法、SDGs総合演習など）、両大学の学生の交流を通してコミュニケーション能力の向上や多様な学生との交流により豊かな人間性の獲得を目指した教職特別演習（集団宿泊研修）など学生たちにとって魅力のある授業科目を準備しています。

県内唯一の国立教員養成学部として、地域の義務教育課程、教員研修体制に対して責任を持つ組織体制と実施体制を安定して維持していく次第です。

宇都宮大学共同教育学部学部長 小宮 秀明



(8号館正面玄関に掲示)

### 目次

同窓会会長と共同教育学部長からのメッセージ…	2	●	大学生活奮闘中……………	8
同窓会から学生への支援……………	3	●	宇都宮大学共同教育学部同窓会について…	9
懐かしい学生の頃……………	4	●	定期総会の概況……………	10・11
現場からの声……………	5	●	第5回ホームカミングデーの様子……………	12
今に生きる……………	6・7	●	編集後記……………	12

# 同窓会会長と共同教育学部長からのメッセージ



## ご挨拶

宇都宮大学共同教育学部同窓会会長  
増 渕 茂 泰

コロナ禍の中、皆様におかれましては健康に万全な配慮をもってご健勝にてお過ごしのことと思います。

宇都宮大学教育学部が令和2年4月に群馬大学と連携することにより、同窓会の名称を「共同教育学部同窓会」と変更することにしました。

定期総会要項につきましては、書面決済をいただき、議事について皆様からのご回答をもってすべてご承認をいただきました。春・秋の叙勲、高齢者叙勲を受章された方々、誠にありがとうございます。役員を退かれた皆様方、本当にお世話になりました。

事業計画も立案したものの、4月から活動スタートの大学入学式、保護者ガイダンス、新入生ガイダンス新入生歓迎会のいずれも中止に追い込まれ、全員入会を強調しようとの意気込みも肩透かしでした。就職支援活動の教員採用試験対策春期セミナーは、個別指導がなく添削のみでした。支援室では3密を避けながら、4年生のみを対象に細やかに指導を行いました。

目に見えない恐怖との戦いは、いつ収束を迎えることができるのでしょうか。後輩学生の将来を考えると、せめて、後期の活動再開を願わずにはおられません。

私は自然科学分野の教員を務めてきましたが、常々「自然の調和」を強調してまいりました。そのバランスが崩れた姿が、今まさに現在の姿ではないかと考えております。「それぞれの世界を壊さず大切に、理解を深めて強調して生きる」ことが、このコロナ禍から私たちが学び取る事柄ではないでしょうか。

最後になりましたが、各支部のご活躍と会員皆様のご健康を祈念し、ご挨拶いたします。



## ご挨拶

宇都宮大学共同教育学部学部長  
小 宮 秀 明

本年1月より学部長を拝命いたしました小宮と申します。同窓会の皆様には日頃から大変お世話になっております。特に学生達の教員採用試験では教員採用試験セミナー等を中心に論作文や面接におきまして丁寧なご指導をいただき心より感謝申し上げます。お陰様で昨年度の栃木県の教員採用合格率は小学校80.4%、中学校88.0%、高等学校50.0%、特別支援学校100.0%、全体の合格率は79.8%と過去最高の結果を得ることが出来ました。改めまして深く感謝申し上げます。今後も学生たちの教職志向を高めつつ、教員採用試験の合格率の向上に努めて参ります。

さて、表紙に書かれていますように、今年4月に教育学部は共同教育学部と学部名を新たにし、181名の新入生を迎え入れスタートしました。少子化、教員数の減少、そして運営費交付金の減少といった厳しい状況の中、両学部のスケールメリットとシナジー効果を活かした先進的な取り組みは国立大学のフロントランナーとして他の教員養成学部からも注目されています。この意味におきましても、宇都宮大学と群馬大学は両学部の特色を活かしたこの組織体制の完成に向け教職員一同、一丸となって力を注いでいく所存であります。

今年も教員採用試験が近づき、4年生たちは建物内への入室が許可され、新型コロナウイルスの感染予防に配慮しながら就職支援室の先生方から論作文、面接や模擬授業の指導を受け採用試験に向け頑張っております。今後とも同窓会の皆様にはご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



「koi」美術分野3年 高橋 里菜

# 同窓会から学生への支援

共同教育学部の学生の就職に役立てるよう、  
同窓会員が支援



## 教師の「生きる力」

就職セミナー指導員

柏崎 純一

子どもたちの「生きる力」の育成が叫ばれて久しい。昨今の新型コロナウイルス禍によって、従前の子どもたちの学習活動は、大きな様変わりを余儀なくされている。対話的で深い学びへの工夫もままならない状況である。

こういった状況下でも求められるのは、次代を担う子どもたちの心身ともに健やかな成長であろう。教師に求められるのは、教師自身の「生きる力」と柔軟な発想によって新たな教育活動を工夫し、同僚性をもってこの苦難の時を乗り越えることである。教師を目指す若い皆さんの力にも大いに期待したいところである。

就職支援室は、皆さんにとって良きアドバイザーでありナビゲーターでもある。論作文の添削・個別指導を担当し、セミナーの受講によってたくましく教師の道を歩もうとする若い皆さんの姿に接し、教育界の明るい展望を感じる今日この頃である。



## 宇大生は立派な教師になれる

元就職セミナー指導員・元就職支援室指導員

飯野 ハツエ

以前私は論作文添削指導、就職支援室支援員として多くの学生に関わり、常に前向きで真摯な姿勢に宇大生の“将来立派な教師になる素質”を確信しました。

添削指導で感じた学生の力量。書く回数を重ねるごとに上達し、その上達ぶりに感動しました。

その後教育学部は、教員採用率の向上を目指して、平成20年6月に就職支援室を開設。当時は教員の道は厳しく狭き門。同窓会は会員2名が就職支援員として協力。開設時に関わった私は、多くの学生が教員を目指すようお願い、教員の魅力ややり甲斐等を語り、その夢の実現に向け支援。支援室利用促進にも努めました。

年々利用者が増加し活動の充実に伴い、教員採用試験合格率が向上。学校現場から、宇大卒業生が“頼れる教師”として活躍している様子を耳にすると、学生の力量、教育学部の取組の成果を感じました。

数年経った現在でも、当時の学部の様々な支援体制の取組は新鮮で、感謝と敬意の念が溢れてきます。



## 夢の実現に向けて

教科教育コース 国語教育専攻卒

町田 玲菜

私は今、念願であった「中学校の教員になる」という夢を叶え、充実した教員生活を送ることができています。こうした生活を始めることができたのは、支援室の先生方のお力添えがあったからこそと思っています。

私は昨年、週に3、4回程、支援室を利用させていただきました。教員採用試験に向けての対策はもちろんのこと、教員採用試験を受けた先輩方のお話や実際に現場で働いている先生方のお話も聞くことができ、非常に勉強になりました。特に私は小論文が不安で、週に1、2回のペースで添削、指導をお願いしていました。そのおかげで本番では特段緊張することなく自分の力を存分に発揮することができました。

教員になりたいと考えている皆さん、是非一度就職支援室を訪れてみてください。先生方が必ず大きな力を貸してくれるはずです。



## 就職支援室という存在の大きさ

教科理系 数学分野卒

石塚 大輝

私は今年度から、高校の数学の教員として働いています。今こうして、大学入学時からの目標であった「高校教員になる」という目標を達成できたのは、就職支援室の先生方のサポートがあったからです。

就職支援室は、主に教員採用試験対策で利用させていただきました。特に一次試験後は、毎日のように集団討論や小論文の添削でお世話になりました。そこで、先生方に多くのアドバイスをいただき、不安がほぼゼロの状態で大番を迎えることができました。また、採用試験が終わった後も何度か就職支援室にお邪魔し、先生方と世間話をしたのは良い思い出です。

これから教員採用試験を受けようと考えている方は、学年関係なく、是非支援室へ行ってみてください。自分にとってマイナスになることは何もないですし、何か必ず得るものがあると思います。



「散策」美術分野3年 増淵 のり佳

# 懐かしい学生の頃

大学を卒業した皆様の当時の思い出



## 同期の仲間との思い出

国分寺支部 石島 直

大学を卒業し今年度教員生活30年目になります。

私にとって宇大での一番の思い出は、同期の技術科の仲間と過ごした時間でしょうか。授業はもちろんのこと、お昼を食べるのも遊びに行くのも男6人で一緒に行動することが多かったと思います。また、教授に連れられ休日に高原山を散策したり、控え室をのぞきに来た先生とゲームをしたりなど、科の先生方とも仲よく過ごさせていただいた4年間でした。教育学部棟北側1階に技術科関係の教室があり、暗くて寒い工場での実習や演習、4階教室での製図の授業等、その当時最先端の技術科教育を学び、3名が本県で、1名が他県で現在も技術科の教員として活躍されています。

最近では、宇大卒業生が技術科教員になることが少ないようですが、宇大技術科OBとしての誇りを胸にこれからも頑張っていきたいと思います。



## ありがたい気持ちを込めて

岩舟支部 島田 めぐみ

大学の合格発表の日、両親や祖父母、担任の先生や友達など、本当にたくさんの方が私の合格を喜んでくれたことを今でもよく覚えています。新品のバッグと定期入れ。わくわくしながら向かった宇都宮大学。何もかもがきらきらと輝いて見えました。そしてそこで出会えたたくさんの大好きな友達。毎日がすごく楽しくて、幸せな日々でした。勇気を出して決めたカナダへの短期留学も、教育実習や教員採用試験を乗り越えることができたのも、先生方のご指導や友達の励ましがあったおかげです。最高に恵まれた環境の中で4年間学べたことに今でも感謝の気持ちでいっぱいです。

なかなか会えない大切な友達に、そして大学時代を支えてくださった皆様に、そして宇都宮大学に、この文章を通して私の感謝の気持ちが伝えられるといいなと願っています。



「初夏、木」美術分野3年 大島 歩実



## 自分のころよりだいぶ「まし」

小山支部 高山 芳樹

昭和51年春の峯キャンパスの第一印象は、独特の書体の体制批判の文言が踊る立看板とフランス式庭園の奇妙なコントラスト。学生運動の残骸と自由の雰囲気との混在である。学生運動闘士はどこへ？ ……自由な雰囲気を謳歌できた。大学生の行動を大目に見る時代であり、体育授業後に酒屋で買ったサッポロジャイアントを気の合う仲間と図書館前の芝生で飲んだりした。各種コンパと下宿への居候、アルバイトやバイク、車、恋愛、バンドなどで忙しい友人たちとの交流も良き思い出だ。それで難解な講義や実験・実習も頑張れた。

ウルフルズの「明日があるさ」の一節に「今の若い奴らはというけれど、昔の自分よりだいぶ増し。大目に見よう……」とある。先輩教師は指導に名を借りたダメ出しを慎み、課題にへこたれず伸びていく前向きな若い教師を慈しみつつ確実に育ててほしいと願う。



## 素晴らしい人たちとの出会い

栃木支部 鈴木 龍一

卒業後、母校を訪れる度に少しずつ表情を変えていくキャンパスの姿に時の流れを感じます。学食やサークルの道場等は立派になりましたが、一部の教室は昔ながらの面影を残していて、多くの同期生や先輩後輩と学んだことが思い出されます。サークルでは学部の異なる、県外の友人もできました。

お世話になった先生方も多くが鬼籍に入り寂しい限りですが、その一言一言が私達の今を支えています。演習で調べたことを発表すると、突っ込まれしどろもどろになることも多くありました。「読む」「調べる」ことの奥深さを学びました。故石井先生が毎時間ガリ版刷りで準備してくださった資料は今も大切に保管しています。紙は黄ばんでいますが、その文字は今でも鮮明です。故長尾先生の「投げられた球は全力で打ち返す」を忘れず定年までやり通したいと思います。

# 現場からの声

教職に就いて活躍している人の  
メッセージ

## 宇大と自分

河内北支部 野谷知秀

母校宇大を卒業して32年目を迎えた。ここまでやってこられたのは、教育学部での恩師との出会いである。「弱い者の立場に立つ。」「自分の頭で考える。」等々、人としてどう生きるのかを教わった。宇大附属小に勤務した際には、多くの教生を指導した。社会人として教員として大切なことは何かを伝えることに力を注いだ。子どもを思うとは、授業ができるとはどんなことなのか、問い続ける教師でありたいと思い走ってきた。

2年前に、勤務校に宇大2年生の教職ボランティアの学生が来た。子どもが好きという思い、よい教師になりたいという熱意、まっすぐな自然体の姿に刺激を受けた。宇都宮大は、今までもこれからも自分の一部である。脳裏に焼きつく恩師の声を聴きながら、目の前の子どもに何ができるか、人のために何ができるかを考え、実行できる教師（人）であり続けたい。

## 今、私たちにできること

塩谷支部 松本充浩

新型コロナウイルス感染症による一斉休業が終わり、生徒たちが生き生きと授業や部活動に取り組む姿を見ると、学校生活というのは、やはり生徒にとって必要な場であるのだと改めて感じました。

さて、先日、オンライン教育についての討論番組を視聴したときに印象に残った発言があります。「子どもが画面で見える相手は面白いYoutuber。教師が提供するのがただの学習動画では、子どもを惹きつけることはできない。」という趣旨のものでありました。我々が教えなければならない内容を、Youtuberの動画のように生徒を惹きつける学習動画にすることはなかなか難しいことだと思います。ただ、学校が再開した今、私たちにできることは、生徒とのかかわりの中で、学びに興味を持たせ、学ぶことの喜びを与えることであると、強く思いました。



## ICT教育の可能性

芳賀支部 川上和秀

宇都宮大学教育学部を卒業してから15年になる。中学校に勤務し、その頃想像していなかったICTを活用した教育を実践している。今年度は新型コロナウイルスの影響で臨時休業となり、授業ができなくなってしまった。しかし、「今できること」を考えた時に、様々な方々の協力のおかげでオンライン学習を実現することができた。本来ならば、3年後に実現されるであろうことをたった1ヶ月で実現したのだ。最初は、生徒も教師も保護者も不安であったが、徐々にその不安もなくなり当たり前のようにオンラインでの学習が行えるようになった。

これからの時代、IoTやAIの発達によりSociety5.0の社会が目前に迫ってきている。そのような社会に適応できるような子供を育成していくためにも、ICTを活用した教育の可能性を探りながら今後も教育活動に取り組んでいきたい。



「水田」美術分野3年 吉崎 奈園



## はなれてもつながる

那須北支部 磯 隆幸

宇都宮大学教育学部を卒業して30数年、私は社会専修でしたが、当時、那須町千振での満蒙開拓現地調査に関わり、歴史と人のつながりを強く意識しました。教育現場でもその経験が生きています。授業でも、教材研究でも、保護者や地域との関わりでも、人とのコミュニケーションの大切さは、今も変わりません。

そして、現在、新型コロナウイルス対応で、これまでの学校のスタイルが根本から揺るがされています。学校として、一教員として、一個人として何ができるのか。頭に浮かぶのは、これまで社会が様々な問題に対応してきた「自助」「共助」「公助」です。特に、「自助」と「公助」の間を調整する「共助」は、発想を転換し、「ひらめき」と「アイデア」で乗り切ることが求められていくでしょう。

大学で培った自由で柔軟な考えを思い出し、子どもたちのために実践していきたいです。



「水仙と小道」美術分野4年 水越 葉子

# 今に



## 自分なりに

宇都宮支部

藍原 洋子  
昭和47年度卒

なんと今年、古希を迎えてしまった私です。現職中はただただ夢中で毎日を通り過ぎてしまい、良い教師だったかどうか、反省ばかりが残ります。今まで健康で無事に過ごすことができたこと、家族・同僚・児童・保護者・地域関係の皆様のお陰と感謝で一杯です。

退職後、民生委員児童委員・社会福祉協議会委員・旧篠原家住宅保存会会員としてボランティア活動をしています。新たな出会いの中で、新たな社会勉強をさせてもらっています。25年来携わってきたグリーンジュニアマーチングバンドからは、感動・元気ももらっています。60の手習いで始めたお茶やリコーダーアンサンブル。日本の伝統や西洋古典音楽に触れ、楽しんでいます。家では主人と共に野菜を育て、自然と触れ合い、収穫の喜びを味わっています。

「努力・忍耐・思いやり」これは、私が嫁に出るとき、母からもらった言葉です。古希を迎えた今、すべてに精一杯では疲れる年になりました。「自分なりの努力・自分なりに忍耐・精一杯の思いやり」の心で、毎日小さな喜びを見つけ、自分なりに満足した日々が過ぎたらと考えるこの頃です。



## 灯台下暗し

日光支部

杉江 秀雄  
昭和45年度卒

最近、さくら市桜野に“滝沢喜平治”という、明治大正期に活躍した県内屈指の実業家がいることを知り記念館を見学した。その後、周辺を散策した折、記念館近くの森の中に喜平治と彼の父・武平の顕彰碑が並んで建っているのを発見し、側近くまで寄ってみた。

武平の碑文を読み進めると【篆額 枢密院顧問官 正二位 勝 安房】の文字が目に入った。“勝安房”とは、言うまでもなく“勝海舟”のことである。

二人の関係がどのようなものだったのかは不明であるが、私が現在住んでいる日光市にも、二人の縁を示す碑が残っている。《保晃会の碑》と言い、碑の撰文勝海舟が担当している。喜平治はこの会の理事だった。

因みに《保晃会》とは、明治維新で幕府からの援助が絶えた日光の社寺を守るため、旧会津藩主の松平容保が初代会長となって組織された文化財保護のための団体である。

さくら市は、自分が育った高根沢町の北隣にある身近な街である。今回“灯台下暗し”の自分を反省すると共に、郷土が育んできた歴史の重さに少しでも触れることができたのは、価値のあることに思えた。



## 茶とともに

藤原支部

堀川 照子  
昭和43年度卒

大学卒業後38年間小学校教員として勤め退職、今はボランティアと趣味の毎日です。

教員生活のストレス発散に、違ったものをやろうと公民館の茶道教室に通い茶を始めました。何か自分にとっても合っていて、先生について夜に習うなどして退職した今も続いています。書道や華道、焼き物、塗り物などいろんな日本文化と関わりを持つお茶の世界は、奥が深く定年もありません。

お茶をきっかけに、小学校6年生社会科の室町文化の体験に、特別支援学級の体験に茶道教室を行っています。中学生は浴衣を縫いそれを着てお茶をやりました。また高校の部活で茶道部のお手伝いもしています。子どもたちと接することは、とても楽しいことです。

そうそう今思い出してみると、お茶との最初の出会いは大学時代でした。講堂の後ろの方にあった学長官舎でのお茶・お花の部活でした。お茶は宗偏流、お花は松翠流で、小林先生にご指導を受けました。学生は免状は学割なんて言われてました。

健康でお茶を続けることを第一に、民生委員や人権擁護委員などのボランティアも続いています。



「水鏡」美術分野3年 中玲蘭



「でんちう」美術分野3年 石川 雅大

# 生きる

退職し、第二の人生を歩む人と  
教育現場で働く人のいま



## 地球3周12万kmを歩き終えて

南那須支部 碓氷 正和  
昭和39年度卒

当時の学芸学部中学校教育課程技術科を卒業し、中学校の教育現場で38年間、その後、町立幼稚園長、家庭相談員などに就いて来た。

50歳早々に原因不明の病気に罹り、病院の梯子をすることになった。その時、医師に「健康を選ぶか、職業を選ぶか。このままでは将来……。」ということで、それ以来、働きながら健康づくりに励むことにし、それが契機で平成2年8月から本格的にウォーキングに取り組むことになり歩き出したのである。

目的は「健康づくり」のためだけでなく「生きる」ためであるから真剣に取り組んだ。とにかく夢中で歩き続けた。毎日きちんと記録もつけた。より確かなウォーキングを追及するため、日本ウォーキング協会に入会、さらに日本ウォーキング学会に入って学術的に研究することにした。そして歩き続けること30年12万kmを達成した。お蔭で現在は頗る元気、健康である。

今までの経験を生かし、現在、地域や県内の仲間と健康づくりのためウォーキングに励んでいるが、これからまだまだ、80歳・90歳・いや、100歳まで健康に留意し仲間といっしょに歩き続けたい。



## 「先生!」という快い響きに支えられ

塩谷支部 五味 潤 俊夫  
昭和54年度卒

「五味潤先生!」

退職して3年目になるが、今も私に対し「先生!」という呼び名(?)が校内に響く。現在私は「スクールカウンセラー」として週2日、中規模小学校に勤務している。

6月1日(月) 新型コロナウイルス対応に配慮しながら学校が再開された。

特に1年生は2ヵ月遅れ。待望のスタートである。教職員は緊張の中で、マニュアルに従い「消毒」が行われる。「ソーシャルディスタンス」を考慮した机配置。トイレや手洗いに並ぶ時も2mの間隔を空ける。

このような未だかつてない状況の中での学校再スタートに立ち会うことができた。校長という立場ではなく、少し自由な専門家(?)として、登校時から1年

生の様子を詳細(?)に観察。私の左手には児童名簿とA4判大学ノート。右手には三色ボールペンを握り、子どもたちの生活や学習の姿をメモする。

勤務日(週2日)には、親との面談や知能検査等の実施、子どもからの相談など、1時間刻みに予定が入っている。学校の中で、子どもたち(担任)の心のケアや悩み軽減につながるよう、私の能力が生かせたらと考え「軽トラ・キャンピングカー」での出勤をしている。



## 私の今

石橋支部 稲垣 和希  
令和元年度卒

今年度から新規採用として教壇に立つはずだったが、ご存知の通り、新型コロナウイルスの影響で少し変わったスタートとなった。

新学期から約2ヶ月、未だに生徒の前で授業ができていない。世間と同様に学校現場も混乱し、先輩の先生方も例年と異なる状況の対応に追われている。

そんな中で、私はこの状況をプラスに考えたい。休校中の生徒のために英語科では動画作りに励んでいる。まさか生徒の前に立つ前に、カメラの前に立つとは思っていなかったが、新しいことに挑戦できている。また、この期間に他の先生方と協力して作業や打ち合わせ等を行なっている。そのため、すでに多くの先生方と関わりを持つことができた。そして、状況が目まぐるしく変わる中で教員人生をスタートしたことは、普通ではできない良い経験になったと思う。

私の生きる今は、教員全員が生徒のために試行錯誤し、学校再開に向けて体制を整えている学校現場である。その中の一員として、少しでも役に立てるよう、「今に生き」たい。



「無題」  
美術分野4年 大田原美香

# 大学生生活奮闘中

共同教育学部の今  
がんばっている人の言葉



## 遠隔授業教室の整備

自然科学系 技術分野 教授

川島 芳昭

2020年度から宇都宮大学教育学部は群馬大学との共同教育学部になりました。これにより、両大学の学生は各大学が開講する講義を受講したり、卒業研究などの指導を受けたりすることができるようになります。しかし、それらを実現するためには、物理的な距離に左右されず、質の高い教育を実現できる教室環境の整備が求められます。そこで、2019年初頭から群馬大学と繰り返し打ち合わせを行ってきました。その中で特に苦労したのが、授業を担当する教員の負担の軽減、そして遠隔地にいる学生のストレスの軽減でした。まず、授業を担当する教員の負担については、基本操作の簡略化、遠隔地の学生の様子を自然に確認できる教室レイアウトなどに苦心しました。特に、スクリーンは、教室の後壁に設置可能な最大サイズのものを設けることで自然な視点で両大学の学生を一望できる空間作りを目指しました。次に、遠隔地の学生のストレスを軽減するために重点を置いたのが教師の視点です。教師の視点がズレていると学生によっては自分たちを見ていない（見方によって無視されている）と感じてしまうかもしれません。これは、受講する上での大きなストレスになる可能性があります。そこで、教師を撮影するメインカメラ、学生を撮影するサブカメラをそれぞれが正面から撮影できるようにカメラ位置を工夫しました。

現在、コロナ禍のため実際に整備した教室を使った授業は行えていませんが、対面授業が再開されたときには、教員、学生が、円滑に授業ができるものと考えています。

(遠隔教室は、2020年度終了までに各大学12教室(計24教室)を整備予定)



教室の後壁に設置した最大サイズのスクリーン。授業をしている先生が、群馬大学の学生を撮影した映像を、このスクリーンで把握できる。



教室の前方には2つのスクリーンを設置し、授業資料や群馬大学の学生の様子の情報など、授業内容に応じて切り替えて投影することができる。



## 未来につなぐ

自然科学系 数学分野

鈴木 秋人

自身の大学生生活を振り返ると、最も濃い時間を過ごしたのが3年次の教育実習である。教育実習では、初めて子どもたちの前に立ち、授業を行った。それまでの大学での学びを生かし、子どもたちにとって、ためになる、学びのある授業をしたいと思い、3週間教材研究や児童理解に奮闘した。実際に授業を行うと子どもたちの想定外の反応があったり、子どもたち主体の授業にならなったりと様々な課題に直面し、自身の技量のなさを痛感した。これまで3週間もの期間を授業作りに没頭した経験がなかったため、とても濃い時間を感じられた。

現在は教員を目指し、日々勉強中である。実習での経験や感じたことは忘れずに今後も頭の片隅に置いておき、ふとしたときに立ち返ることができるようにし、将来を担っていく子どもたちの成長に少しでも役に立てるよう学び続けていきたい。



## 初心と成長する自分と

芸術・生活・健康系 音楽分野

上田 大倭

「音楽にかかわる勉強や仕事がしたい」「学校の先生になりたい」この2つの思いから選択した進路でした。おかげさまで充実した日々を送っています。難しい授業もありますが、自分で決めた道だと言い聞かせながら懸命に頑張っています。そんな大学生活も気づけば半分以上が終わってしまいました。振り返ってみると、入学してからたくさんの刺激を受け、自分が少しずつアップデートされているように感じます。

一方で、初めの2つの思いに迷いが生じてきたのも事実です。しかし、この迷いは大学生活を通して得られた成長ゆえのものであると感じています。初心を忘れてはいけませんが、成長した自分も認めながら、たくさん悩んで最善の選択をしていきたいです。そして、残りの学生生活も、本気で学問に向き合っていきたいと思います。さらに成長した自分と出会うために。

# 宇都宮大学共同教育学部同窓会について

宇都宮大学共同教育学部同窓会は、栃木師範・女子師範・青年師範・宇都宮大学教育学部（学芸学部）が、幾多の変遷を経ながら一体となって、昭和43年に「宇都宮大学教育学部同窓会」として誕生しました。令和2年度で144年という輝かしい歴史と伝統をもつ団体です。その間、同窓生は児童・生徒の教育に情熱を傾け、教育の中心的な存在として活躍してきました。また、教育以外の分野でも、各方面で、活躍されています。

同窓会では、ねらいを「母校の発展に寄与すると共に、会員相互の親睦と資質の向上を図る」としています。

活動内容は下記の通りです。

## 母校である宇都宮大学への協力

- 宇都宮大学基金への協力
- 新入生歓迎会への協力
- 学生へ記念品の贈呈

- 就職対策セミナー（教員）への支援
- 就職支援室への協力
- 災害時における対応（見舞金）
- 施設の新設・改修への協力
  - ・ 学生のサークル活動施設の新設（コスモス）（H17年度）
  - ・ 宇都宮大学まなびの森保育園の新設（H18年度）
  - ・ 宇都宮大学旧講堂の改修（H19～22年度）
  - ・ 教育学部音楽棟の改修（H25～27年度）

## 同窓会員の親睦

- 総会（県・各支部）・懇親会の開催
- 役員会・理事会等の会議の開催
- 現職会員と終身会員との話し合い・交流
- 会報（年1回）の配布
- 会員の慶弔に関する事業

## 就職支援

共同教育学部の学生が、資質豊かな教員になるため、以下のような支援をしています。

### 1. 就職セミナー

教員採用試験対策春期セミナー（集団面接指導・論作文個別指導／4年生対象）

教員採用試験対策夏期セミナー（個人面接・集団討論／4年生対象）

教員採用試験対策秋期セミナー（論作文個別指導／3年生対象）

- 集団面接担当者：大野 薫・高梨敏朗
- 論作文担当者（論作文の添削も含む）：柴田悦子・今野綾子・長嶋憲介・綱川芳孝  
木村のり子・柏崎純一・中村ひろみ

※今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、予定が変更されることがあります。

### 2. 就職支援室

就職に関する全般の指導を常時行っています。（月～金／10時～16時）

※今年度は「3密」を避け、例年以上に細やかに指導しています。

- 就職支援室指導員：渡邊昌子・刀川恵子



論作文指導



指導助言の先生と個人面接練習



集団討論練習（7～8人G）



学生同士の個人面接練習

## ●令和2年度に終身会員になられた方

【宇都宮支部】井口桂一・伊澤栄一・伊藤由美子・宇賀神貴・酒井功夫・鈴木裕子・高橋敦子・刀川恵子  
徳永朋子・中村ひろみ・浪花 寛・山崎正子

【日光支部】須藤由紀夫

【芳賀支部】鈴木伸治・山口 宏・高浜真理子・赤羽治男・田中正浩

【小山支部】飯嶋 治・鈴木史隆

【佐野支部】茂木郁夫・秦 慎一・増田 博

【足利支部】山口良夫・清水 博・刑部信也・高橋知俊・若井祐平・印南 宏・堀江英夫・須藤浩之・大澤政子  
園部 孟・荒井道夫・河内忠之・長竹絹江・池田尚義・池田フミ・片貝和雄・間宵 勉・坂本三郎  
田部井健二・村山哲也・相場邦一・吉田哲也・桑原信也・黒崎洋紀・櫻木賢治

【那須北支部】渡辺 剛・印南伸一

## 叙勲受章者への賀詞贈呈 おめでとうございます

◎秋の叙勲	和久井紀明 様 (栃木)			
◎春の叙勲	山市 隆 様 (宇都宮)			
◎高齢者叙勲	横山和夫 様 (宇都宮)	糸川 悦 様 (壬生)	雲井阿佐海 様 (那須北)	高野静夫 様 (南那須)
	鎌田イチ 様 (宇都宮)	小堀弘造 様 (栃木)	森笠光雄 様 (那須北)	
	恩田稔雄 様 (宇都宮)	酒巻新一 様 (栃木)	渡邊 透 様 (那須北)	
	荒井俊一 様 (宇都宮)	高橋鐵夫 様 (栃木)	井上光男 様 (那須北)	
	岡田 忠 様 (宇都宮)	江面幸雄 様 (栃木)	三森房義 様 (那須北)	
	(令和2年5月ご逝去)	渋谷芳夫 様 (佐野)	関谷次男 様 (那須北)	
	生井一朗 様 (日光)	慶野禮次 様 (足利)	黒尾 榮 様 (那須北)	
	濱島文太郎 様 (芳賀)	赤坂光三 様 (足利)	加藤 保 様 (那須北)	
	木村 孝 様 (芳賀)	増淵昭二 様 (塩谷)	前田光義 様 (那須北)	
	内田良一 様 (芳賀)	長島昭宇 様 (那須北)	宮寄安生 様 (那須北)	



## 退任者への感謝状贈呈 お世話になりました

竹井 誠 様 (副会長)	田中宏太郎 様 (西方支部長)	茂木郁夫 様 (佐野支部長)
井口桂一 様 (副会長)	阿美浩二 様 (今市支部長)	渡邊和洋 様 (塩谷支部長)
酒井功夫 様 (副会長)	堀川照子 様 (藤原支部長)	
北條伊里子 様 (副会長・都賀支部長)	高田雄康 様 (日光支部長)	
薄井忠恵 様 (副会長・南那須支部長)	高橋修一 様 (国分寺支部長)	
徳田洋子 様 (監事)	山田恒夫 様 (大平支部長)	
大谷恵子 様 (河内北支部長)	大山瑞葵 様 (野木支部長)	
佐藤秀彦 様 (上三川支部長)	山本広紀 様 (藤岡支部長)	
杉山 薫 様 (南河内支部長)	中山 観 様 (栃木支部長)	



### 令和2年度同窓会役員・支部長・相談役・評議員名簿

#### 【役員】

- 客 員：石田朋靖・小宮秀明
- 顧 問：柴田 毅・松本展壽
- 会 長：増淵茂泰
- 副会長：橋本和英・北見 修・豊田 充  
高梨敏朗・間宮栄二・堀田由美子  
大越浩子・高橋 司・戸部義則
- 監 事：市岡正嗣・大沢智恵子
- 事務局：阿久津嘉子・高尾亮子・薄井桂子

#### 【支部長】

宇都宮	増淵茂泰	河内北	野谷知秀
上三川	吉田浩之	南河内	野沢美恵
西方	相田美由紀	今市	岡本一穂
藤原	山口享一	日光	杉江秀雄
芳賀	生井孝雄	都賀	石川幸子
壬生	北見 修	石橋	倉澤健一
国分寺	石島 直	大平	亀田浩史
野木	鈴木舞花	藤岡	瀬戸秀希
岩舟	関口利美	小山	森下 尚
栃木	森加奈夫	佐野	豊原 守
足利	鈴木一弘	塩谷	五味淵俊夫
那須北	豊田 充	南那須	高田榮順

#### 【相談役】

- 事務長 中山忠男  
 保健体育分野教授 小宮秀明  
 数学分野教授 酒井一博  
 教職大学院教授 人見久城  
 技術分野教授 川島芳昭  
 音楽分野准教授 新井恵美  
 英語分野准教授 田村岳充

#### 【評議員】

- 宇都宮 松尾昭男・石川宗子・林田弘之  
 河内北 森 康弘  
 上三川 荒川景子  
 南河内 上野友美  
 西方 室井将男  
 今市 佐藤 洋  
 藤原 星 昌志  
 日光 佐々木洋  
 芳賀 小林敏男・片岡康夫・大根田佳夫・飯島雅文

- 都賀 大岡 裕  
 壬生 青木靖至・鈴木工ツ子  
 石橋 土屋周平  
 国分寺 中川恵津子  
 大平 山田恒夫  
 野木 福田隆浩  
 藤岡 山中恵美  
 岩舟 熊倉正巳  
 小山 山田千秋・青木清治・永井有妃子・増淵昌幸  
 白石成世  
 栃木 飛鳥美紀・関 恵・鈴木文香・岩瀬明雄  
 神澤久美子  
 佐野 小林康男・茂木郁夫  
 足利 須藤浩之・村山哲也  
 塩谷 小林和弘  
 那須北 伴 伸一・小松隆夫・増淵みち子・伴真貴子  
 南那須 石川周一・滝原一夫・坂本 勉

# 令和元年11月23日(土・祝) 第5回 ホームカミングデーの様子

令和元年11月23日(土・祝)第5回ホームカミングデーが行われました。

今回も「おかえりなさい宇大へ」というキャッチコピーのもと、雨にもかかわらず、懐かしい宇大へ多くの方が集まってくれました。

和やかな充実した場となりました。懇親会では、同窓生(県内・県外を含め)が、先生方・学生と親しく交わり旧交を温めました。



懇親会



同窓会近況報告



全員集合！ 記念撮影

## ホームカミングデーアンケートから

- 大学祭との同時開催で、懐かしく参加でき、満足。
- 大学教育の現状・プレゼンテーションの説明を聞き、有意義だった。
- 会場の設定、時間配分など、改善がなされていて素晴らしい。
- 懇親会で、大学の先生や支援室の方と親しく話ができ、大学の実状の一端を理解できた。学生とも話ができ、有意義だった。



学生によるミニコンサート



プレゼンテーション (これからの小学校外国語教育)

## 編集後記

● 新型コロナウイルス感染と熱中症が心配される中、会報128号をお届けすることができました。玉稿をお寄せいただきました皆様に感謝いたします。● 宇都宮大学における学部名変更—教育学部から共同教育学部へ—を特集しました。これは、先進的な取り組みとして他大学からも注目されているようです。● 定期総会の概況には新しく評議員を載せました。ホームカミングデーの様子は写真でわかりやすくなりました。参加すると現在の大学の様子がよくわかります。皆様もぜひご参加ください。

【編集委員】 大越浩子・小林純子・徳永幸子・高尾亮子・阿久津嘉子